

# 相馬市でのWBCによる被ばく検診結果(6)

## 結果概要

平成28年7月14日

1. 検査時期：平成27年4月26日から平成28年3月31日まで
2. 受診者：相馬市民 4,767人（大人 2,185人、子供 2,582人）
3. 検査機器：キャンベラ社製ホールボディカウンター（相馬中央病院、公立相馬総合病院）を使用し、セシウム134および137に由来する放射線を測定しました。機器の測定検出限界は、約4Bq/kg（250Bq/body）です。今回の結果は、相馬中央病院および公立相馬総合病院での測定結果をまとめて集計しています。小児の集計には、2015年9月1日から12月10日に行われた学校検診での検査結果も含めていません。

## 4. 検査結果の説明

- ① 図1-1、1-2: 今回の測定で放射性セシウムが検出された割合は、成人および高校生で14名(0.6%)、20Bq/kg以上を検出した方は2名(0.09%)でした。一方、子どもの検出割合は、0%でした。
- ② 図2-1、2-2: 平成24年6月から平成28年3月の月別受診者数とセシウムの検出率の推移をグラフで表しています。
- ③ 図3-1、3-2及び3-3: 放射性セシウムの年齢別検出割合は70代が1.5%と一番高く、次いで高いのが60代の1.1%でした。食生活の違いおよび体内に取り込んだ放射性セシウムの排泄速度(生物学的半減期)の差などが影響していると考えられます。
- ④ 図4-1、4-2及び4-3: アンケートの結果、内部被ばくの原因として気になる食材・チリやほこりの吸入についてをみると、小児のほうが成人にくらべてやや気にしている割合が多いことがわかりました。中でも魚は不安度がやや高い傾向にありました。しかしながら、2012年度に比べて不安度は低くなる傾向にあります。
- ⑤ 図5-1及び5-2: 食材は、多くの方がスーパーで流通しているものや、地元産であっても検査を経たものを摂取されており、未検査の食品の摂取を続けている方は少ない状況です。これは小児と成人で傾向は大きく変わりません。
- ⑥ 図6-1及び6-2: 水に関しては、飲料水は約半数がミネラルウォーターを使用されておられるのに対し、調理水は市水道を使用されている方が多い傾向にあります。これは小児と成人で傾向は大きく変わりません。
- ⑦ 図7-1及び7-2: 多くの方がWBCによる検査継続を引き続き希望されていることがわかりました。相馬市では、今後もWBCでの測定業務を続けていきますので、自身の健康を守るために積極的に受診するようにしてください。

## 【結果の総括】

2015年4月から2016年3月末までの内部被ばく検査集計をご報告致します。

検査月別のセシウム検出率は、大人は低下傾向、子供も非常に低い状況を維持しています。国の定める1mSv/年の被ばく量に比べ、2桁以上低い値を維持しています。現在の相馬市での生活を続ける上での慢性的な内部被ばくが問題になるレベルにはありません。

産地を選ばずとも、流通している食品の汚染度が抑えられており、地元産の検査済みの食品・水道水について安全性が十分に高いことが内部被ばく検査からも裏付けられています。この状況は震災後長期にわたって維持されています。

内部被ばくの値は低い状況を維持しておりますが、今後も継続的な検査や食品検査の徹底いたします。市では、各種放射線検査の拡充、食品検査結果の迅速な公表・注意喚起に努めるとともに、継続的な検査、健康フォローの強化を行っていきたいと考えております。

相馬市長 立谷 秀清

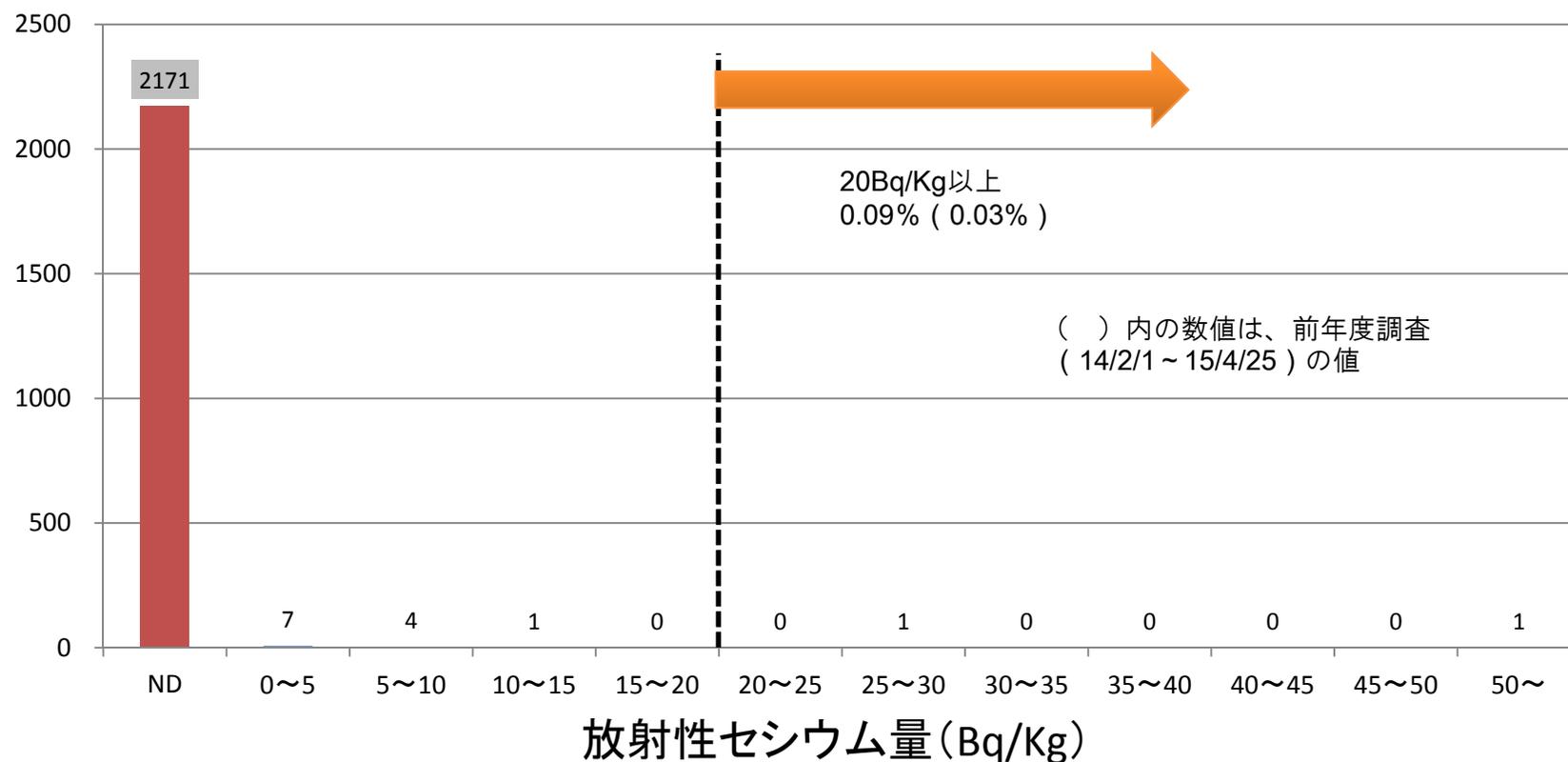
作成 相馬中央病院 坪倉正治

図 1-1

## セシウム137の体内放射能量別の被験者数

通期15/4/26 ~ 16/3/31 (n=2,185) 大人(高校生以上)

・受診者人のうち未検出(ND)の方は、2171人(99.4%)で前年度の99.2%とほぼ同レベルでした。  
 ・20Bq/kg以上検出した大人は、2名、0.09%(前年度0.03%)でした。



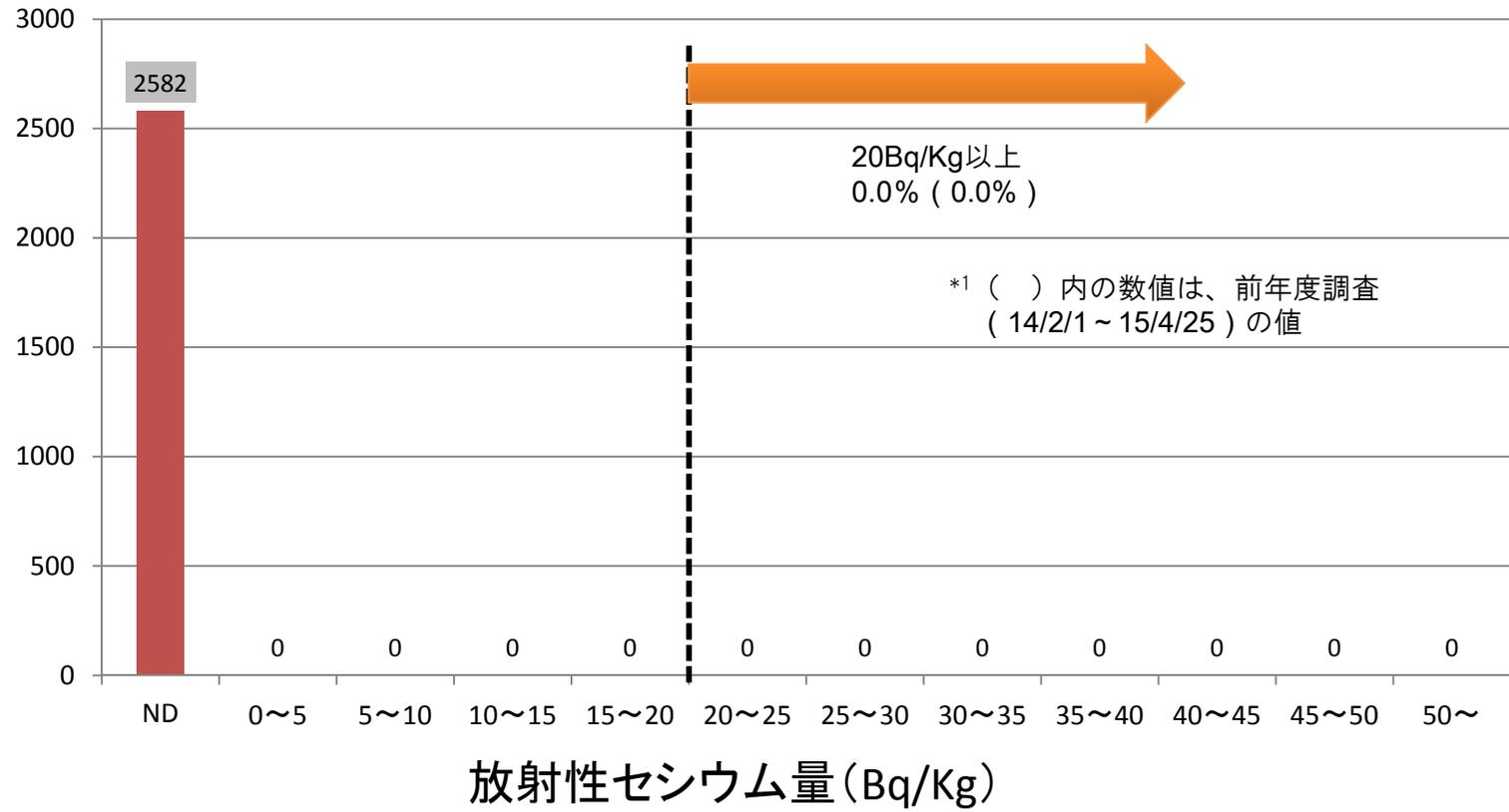
ND	0~5	5~10	10~15	15~20	20~25	25~30	30~35	35~40	40~45	45~50	50~
2171	7	4	1	0	0	1	0	0	0	0	1
99.36%	0.32%	0.18%	0.05%	0.00%	0.00%	0.05%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.05%

検出限界は250 Bq/body (体重60 Kgの方で4 Bq/Kg程度) です。

図 1-2

セシウム137の体内放射能量別の被験者数  
 通期15/4/26 ~ 16/3/31 (n=2,582) 小児 (中学生以下)

・受診者人のうち未検出(ND)の方は、2,582人 ( 100.0% ) で20Bq/kg以上検出した子供は、0名でした。  
 ・今回の結果には2015年9月1日から12月10日まで行われた学校検診も含まれています。



ND	0~5	5~10	10~15	15~20	20~25	25~30	30~35	35~40	40~45	45~50	50~
2582	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

検出限界は250Bq/bodyです。体重60Kgの方で4Bq/Kg程度になります。

図 2-1

# 月別受診者数の推移

平成24年6月～平成28年3月

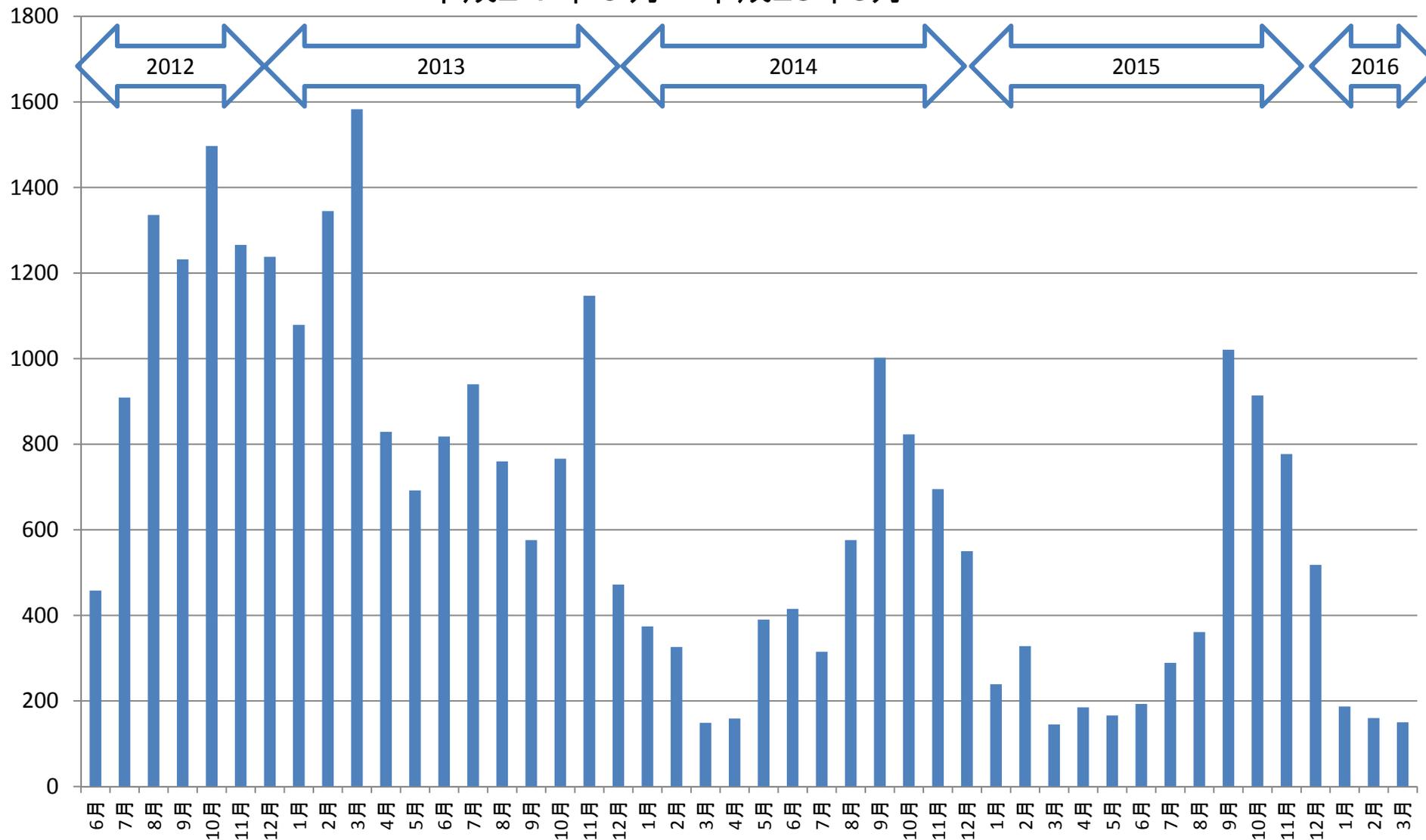
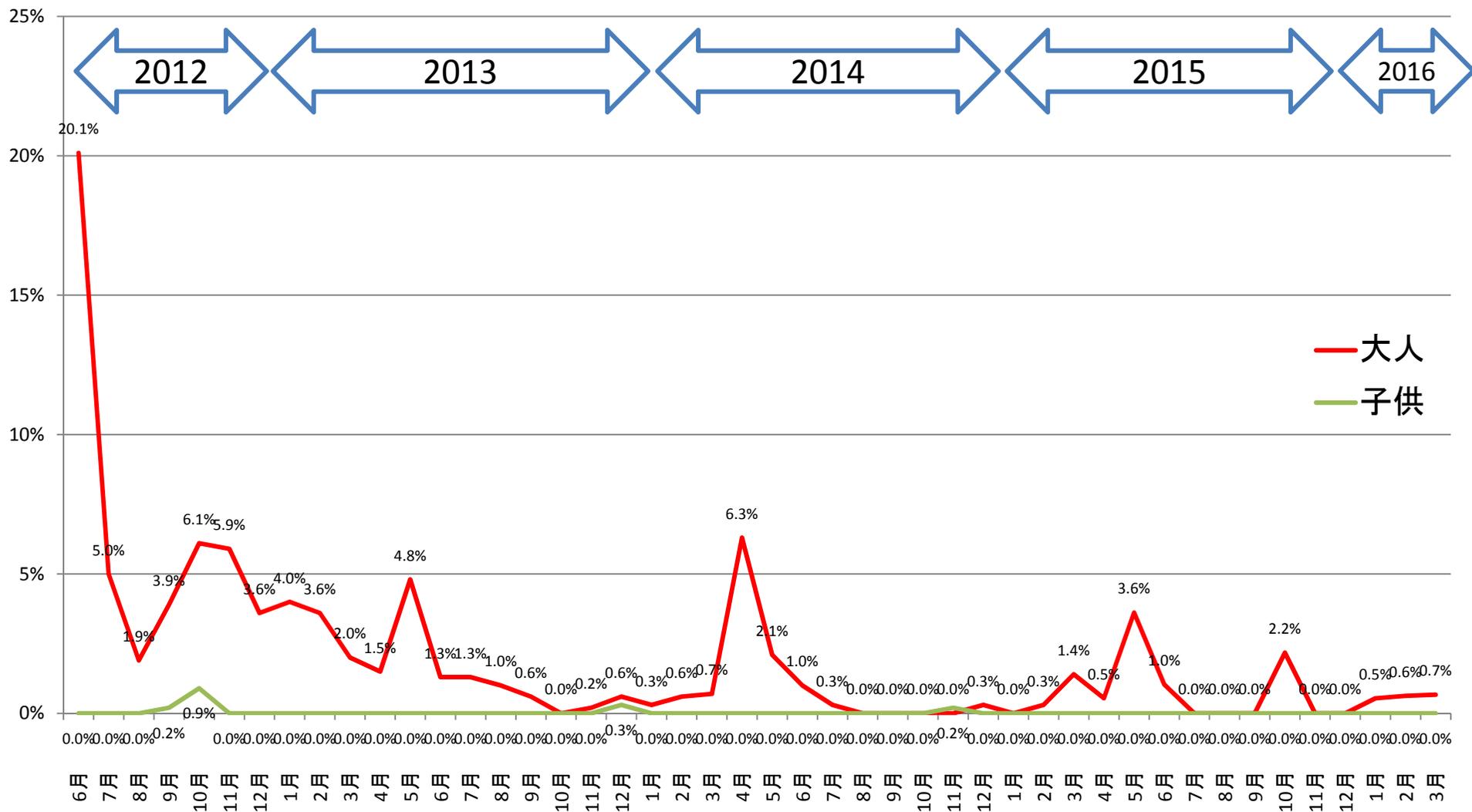


図 2-2

# 月別セシウムの検出率の推移

平成24年6月～平成28年3月



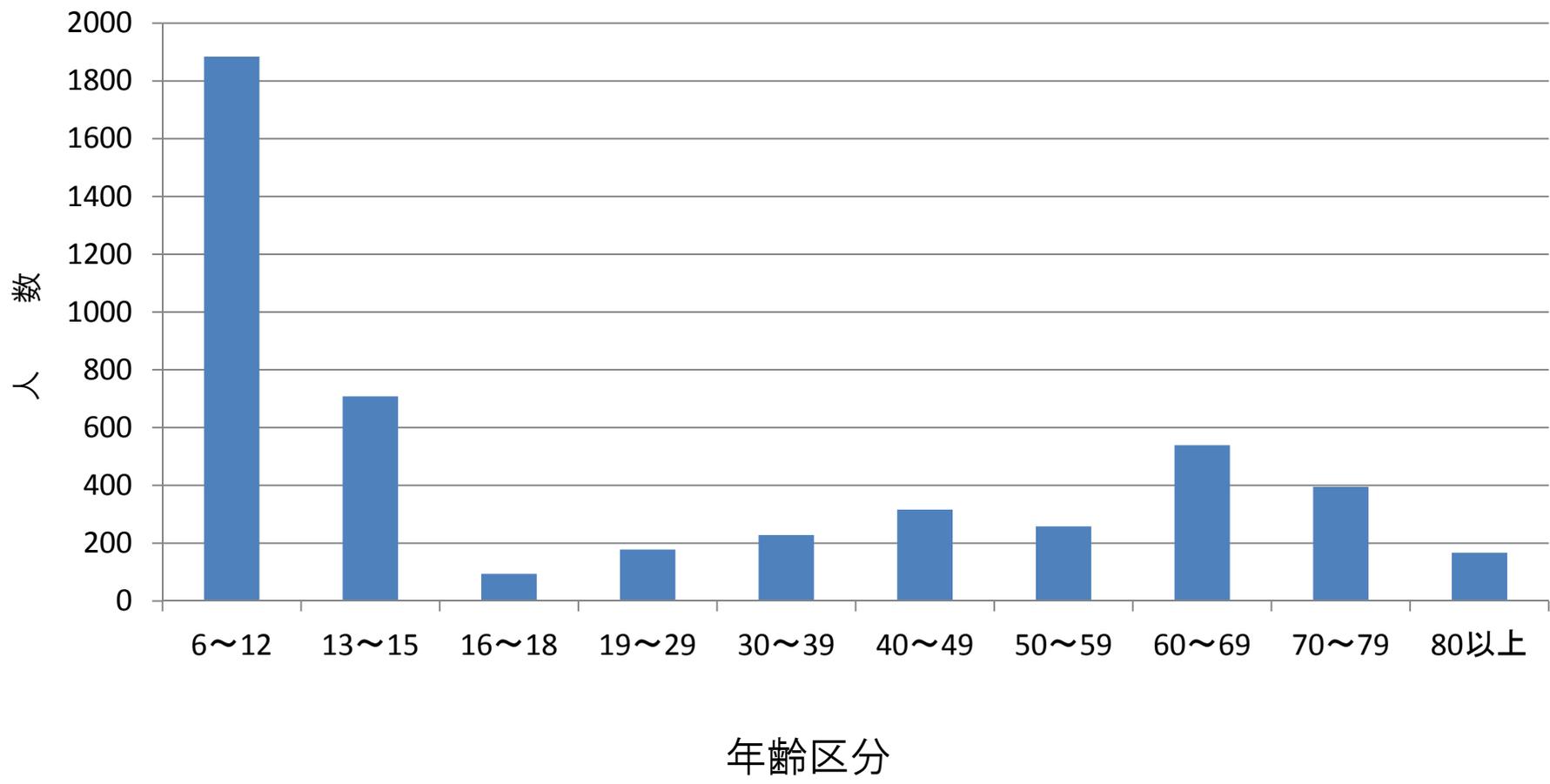
※検出率は、セシウム134またはセシウム137のいずれか、または両方が検出限界以上の場合を「検出」としています。  
 ※大人は高校生以上、小児は中学生以下と定義しています。

図 3-1

一般+学校検診

# 年齢別受診者数

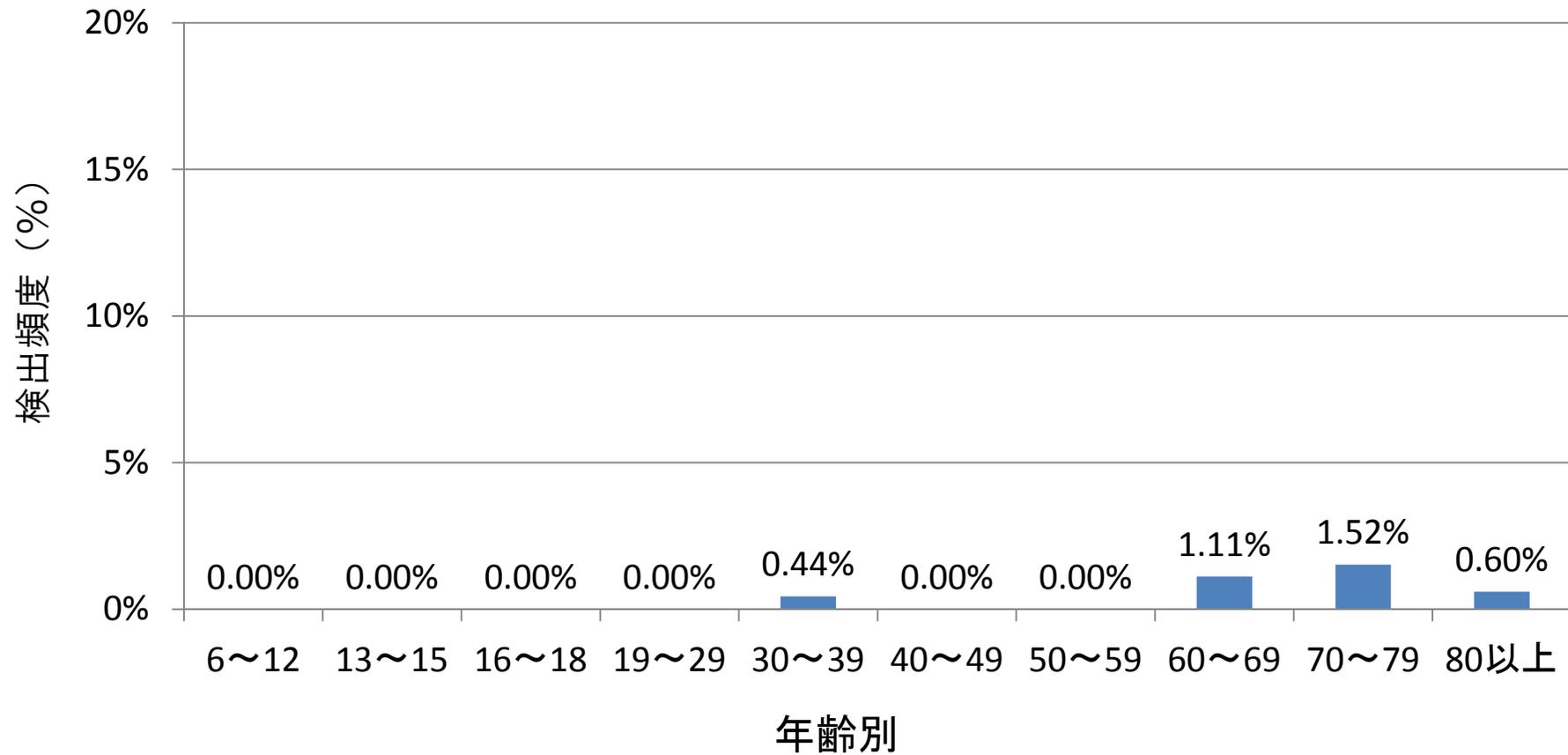
平成27年4月26日～平成28年3月31日



年齢区分	6~12	13~15	16~18	19~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80以上
受診者数	1884	708	94	178	228	316	258	539	395	167

図 3-2

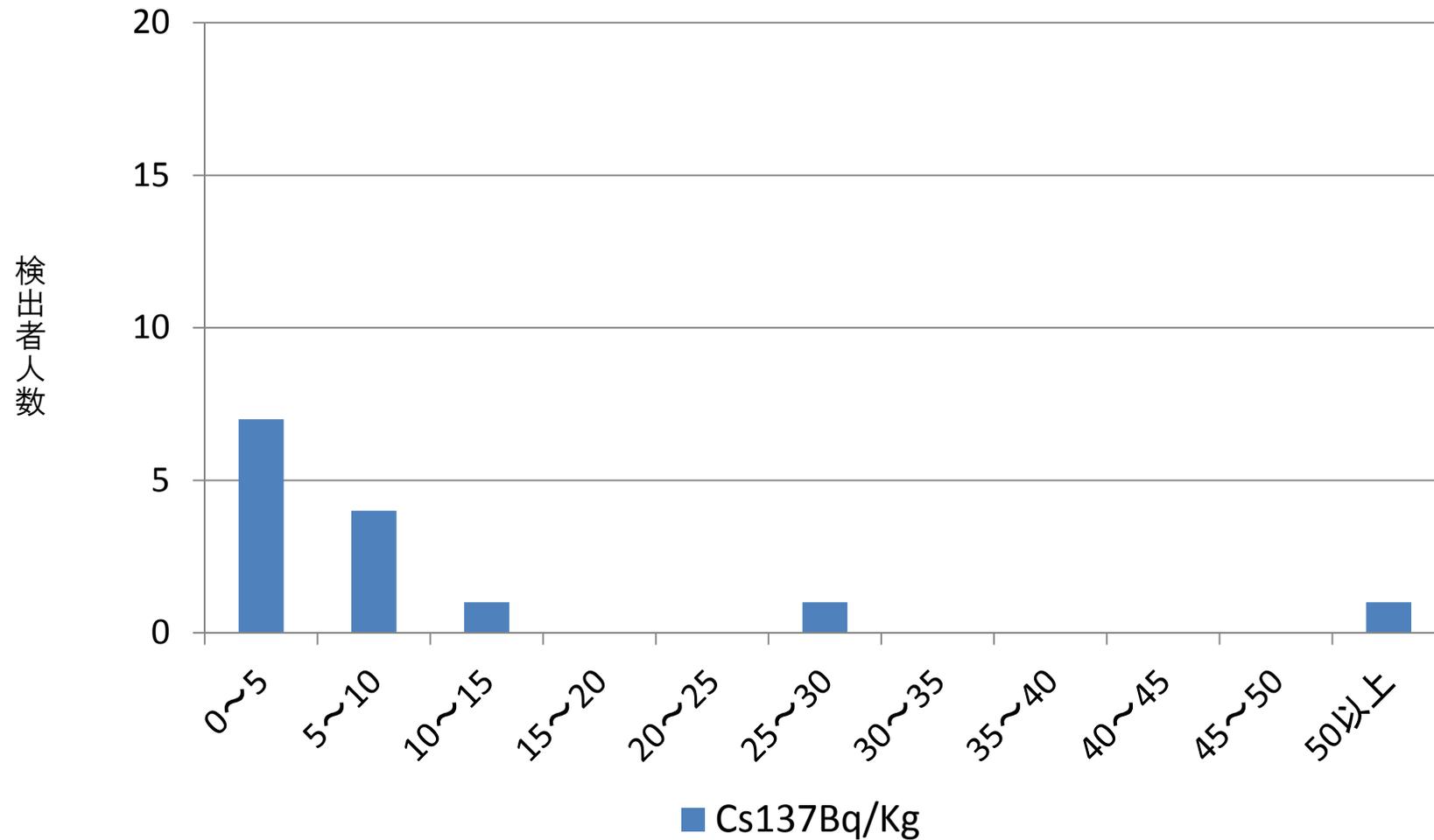
# 年齢別セシウム137検出割合 n=4,767



年齢区分	6~12	13~15	16~18	19~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80以上
検出人数	0	0	0	0	1	0	0	6	6	1

図 3-3

# セシウム137検出者詳細 n=4,767

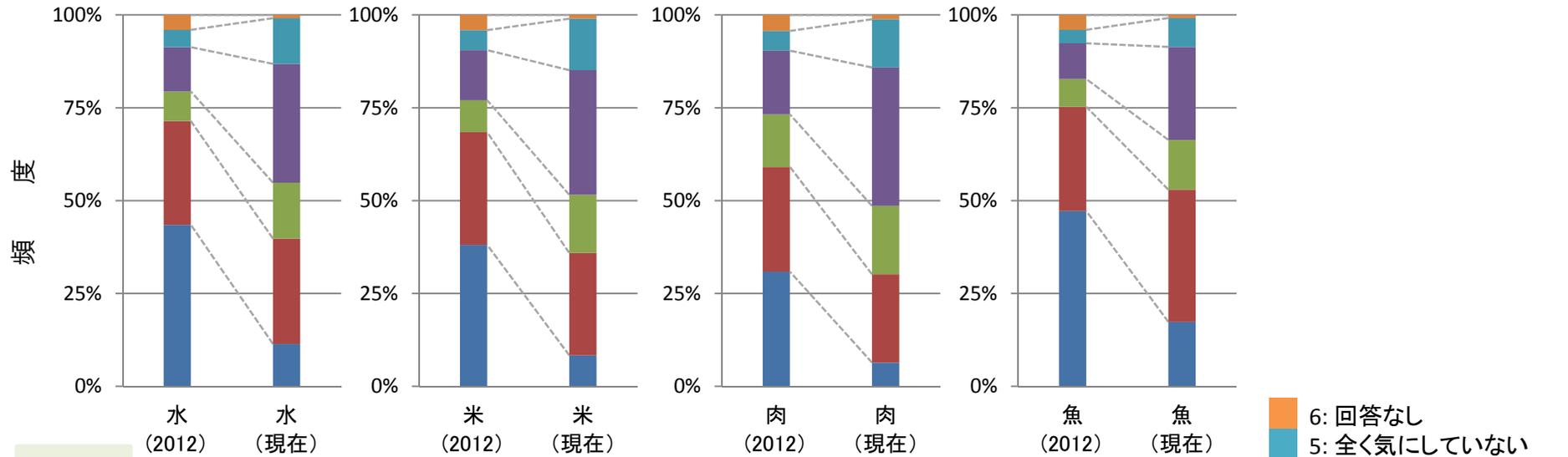


Cs137Bq/Kg	0~5	5~10	10~15	15~20	20~25	25~30	30~35	35~40	40~45	45~50	50以上
検出人数	7	4	1	0	0	1	0	0	0	0	1

図 4-1

# 内部被ばくの原因として気になる食材

大人



小児

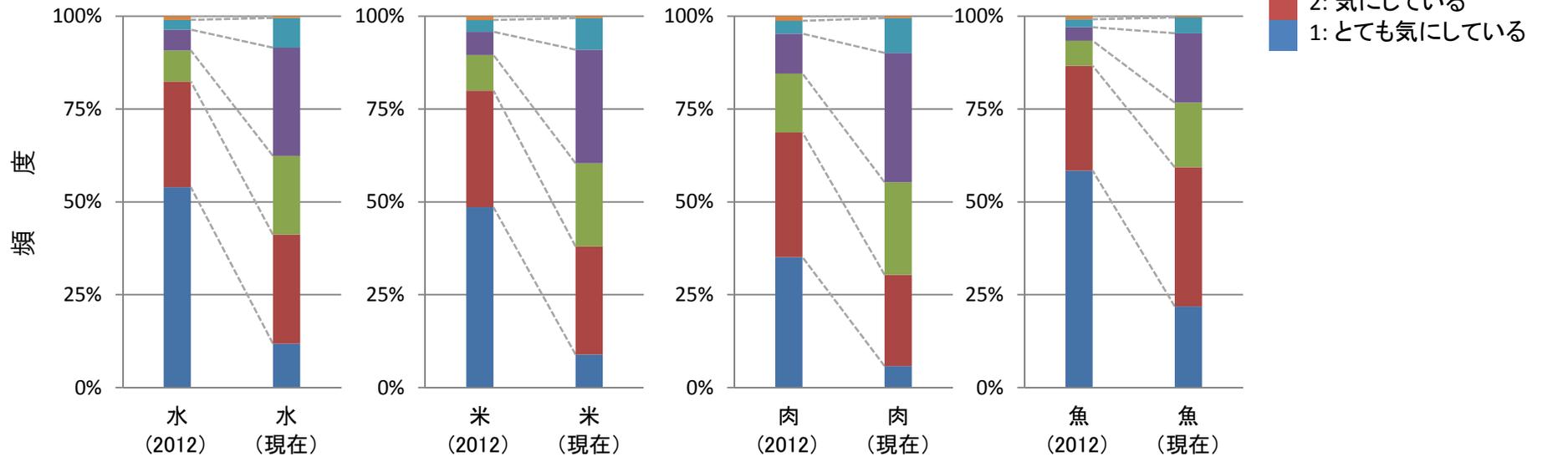
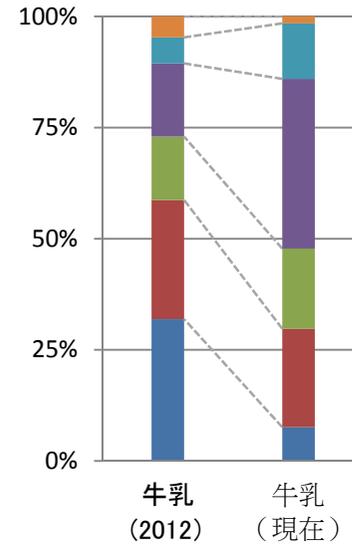
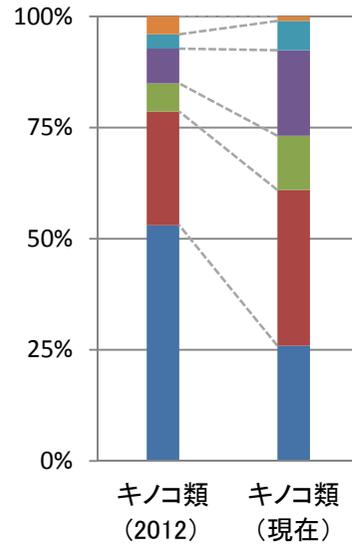
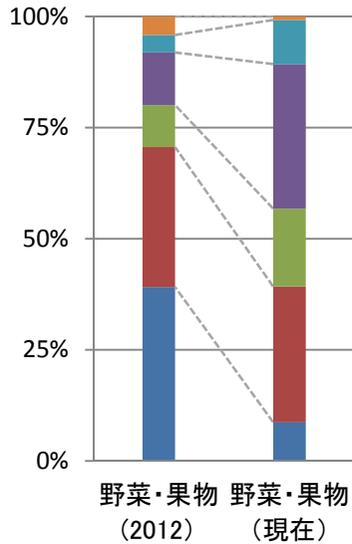


図 4-2

# 内部被ばくの原因として気になる食材

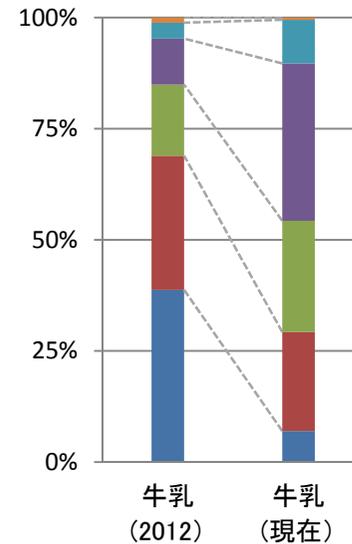
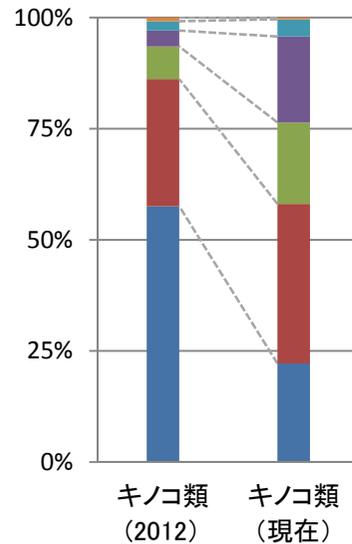
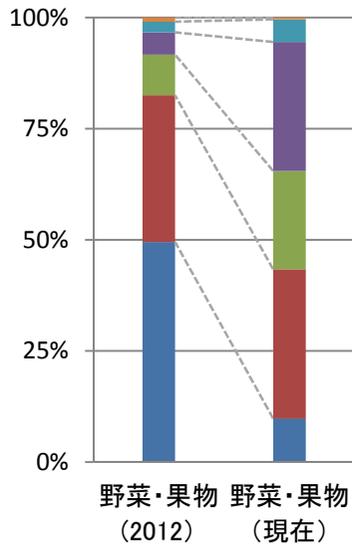
大人

度  
頻



小児

度  
頻



- 6: 回答なし
- 5: 全く気にしていない
- 4: あまり気にしていない
- 3: どちらともいえない
- 2: 気にしている
- 1: とても気にしている

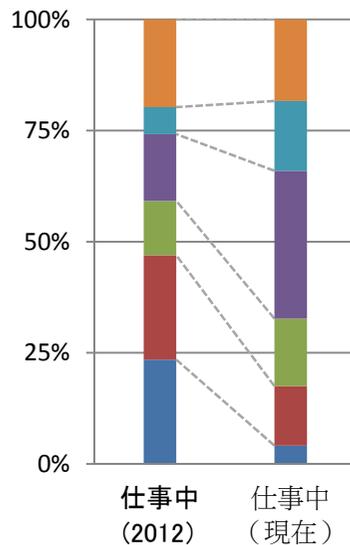
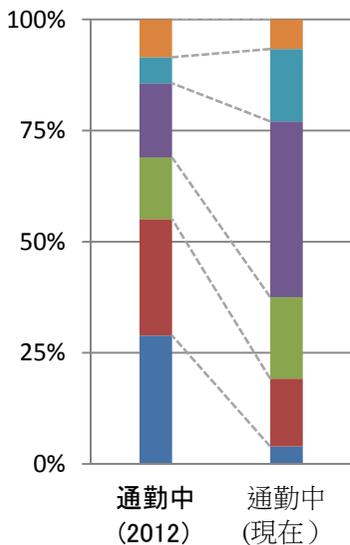
図 4-3

# 塵やほこりの吸入について

大人

通勤をしている方のみ対象としています。

頻度



- 6: 回答なし
- 5: 全く気にしていない
- 4: あまり気にしていない
- 3: どちらともいえない
- 2: 気にしている
- 1: とても気にしている

小児

頻度

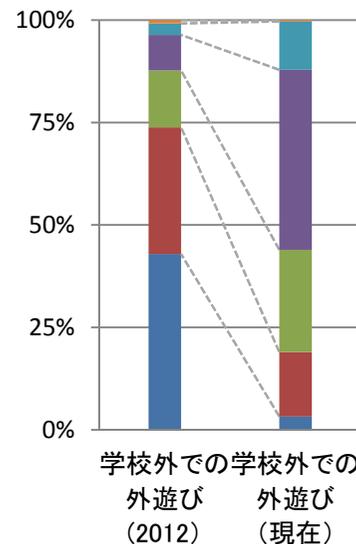
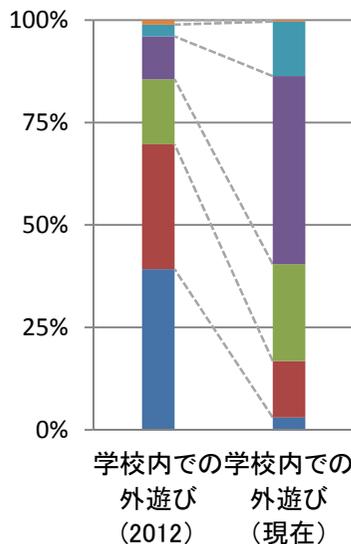
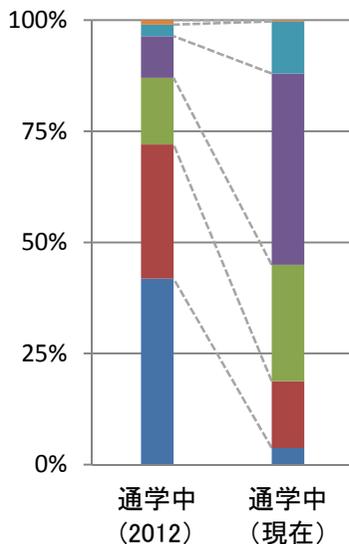


図 5-1

# 食べ物の調達方法

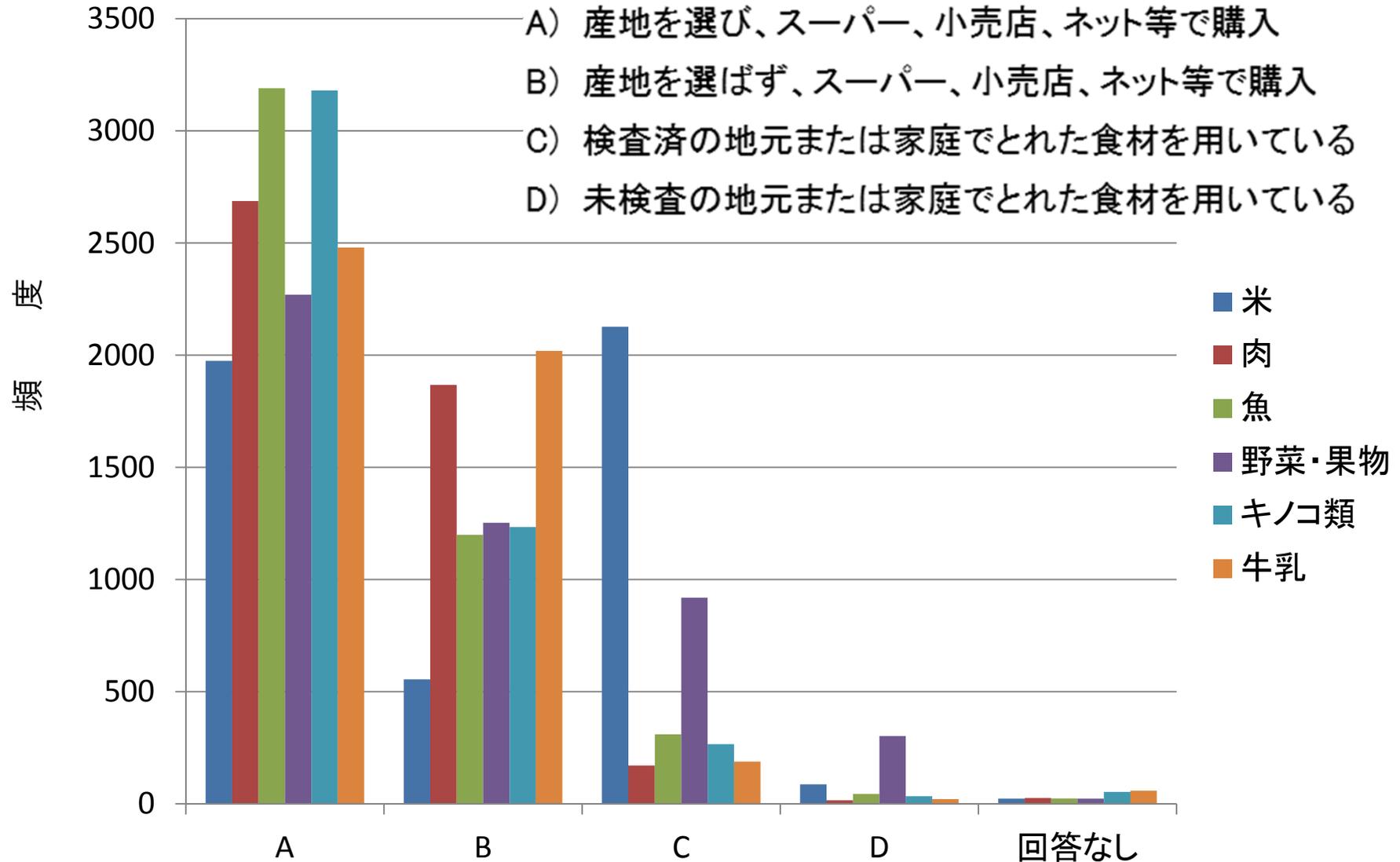


図 5-2

# 食べ物の調達方法

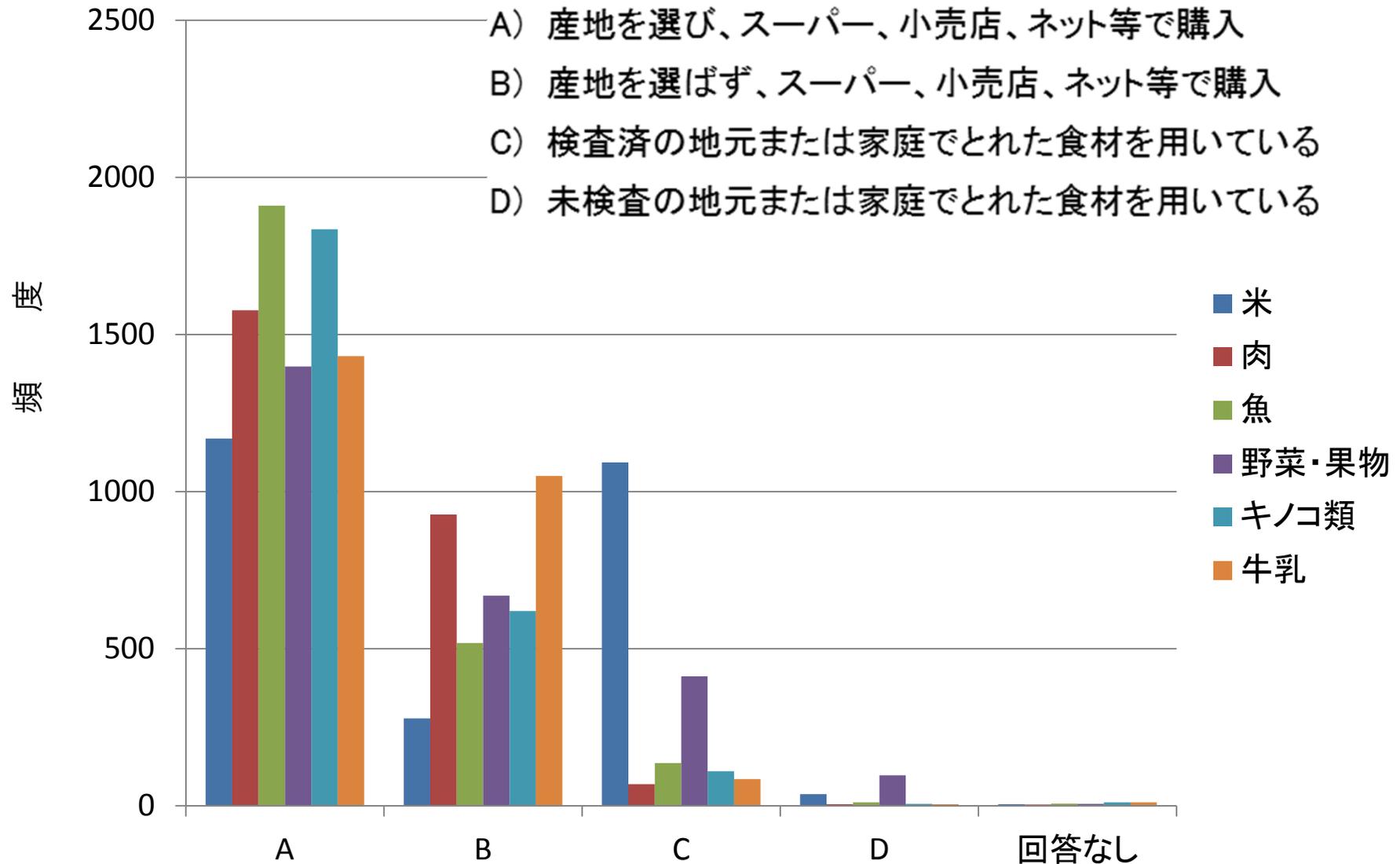


図 6-1

# 自宅の飲料&調理水の種類

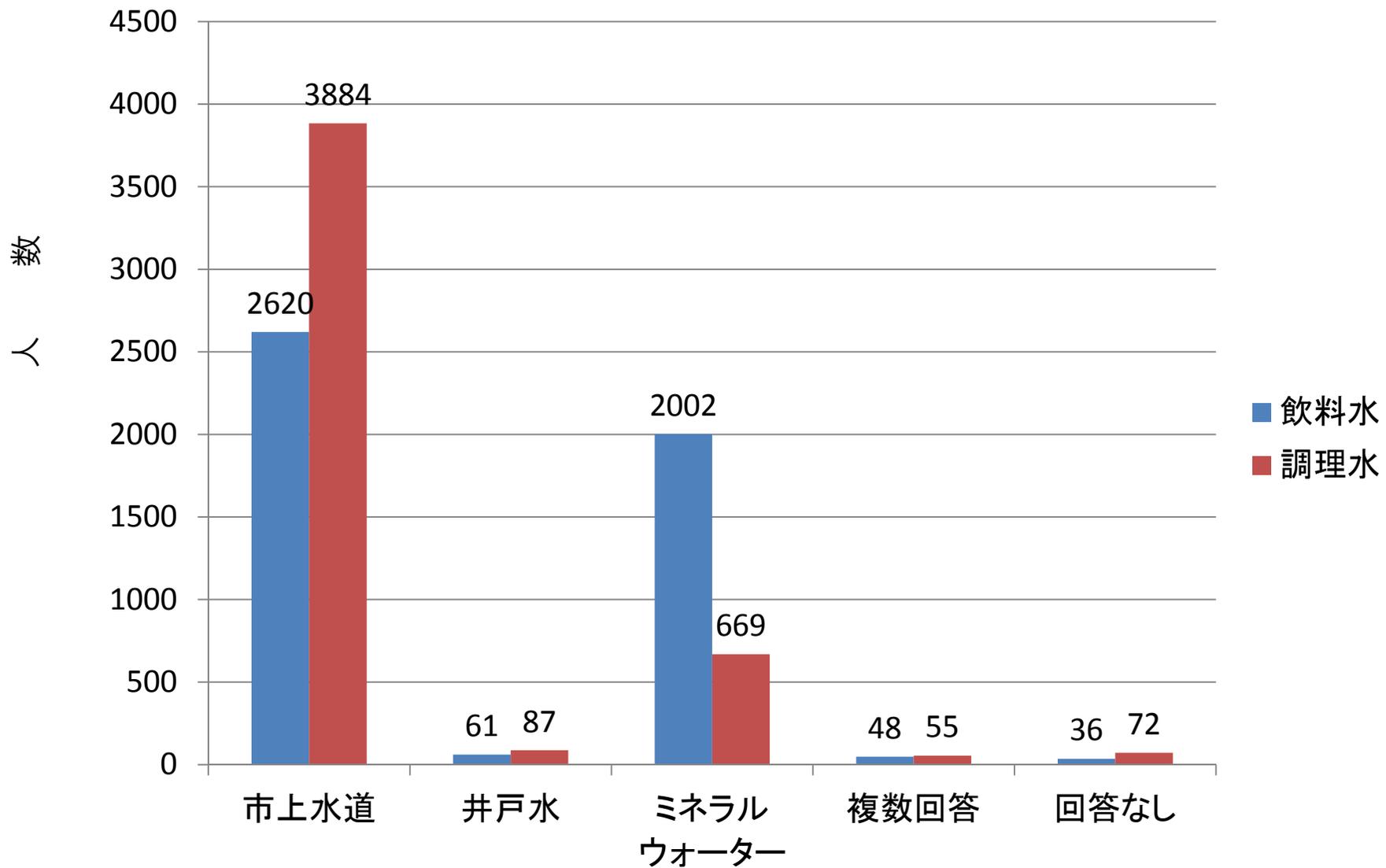


図 6-2

# 自宅の飲料&調理水の種類

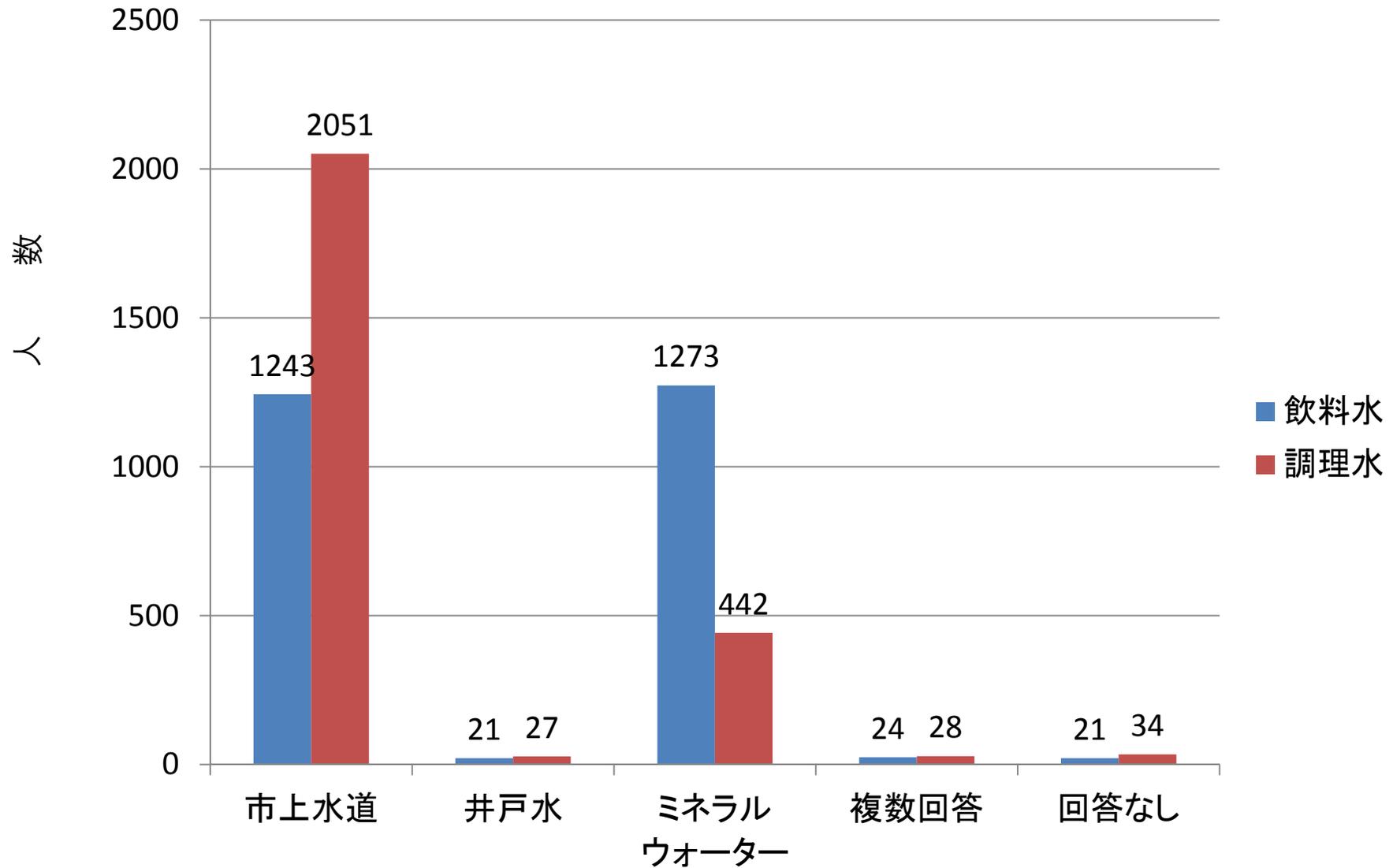


図 7-1

# 今後のWBC検診について

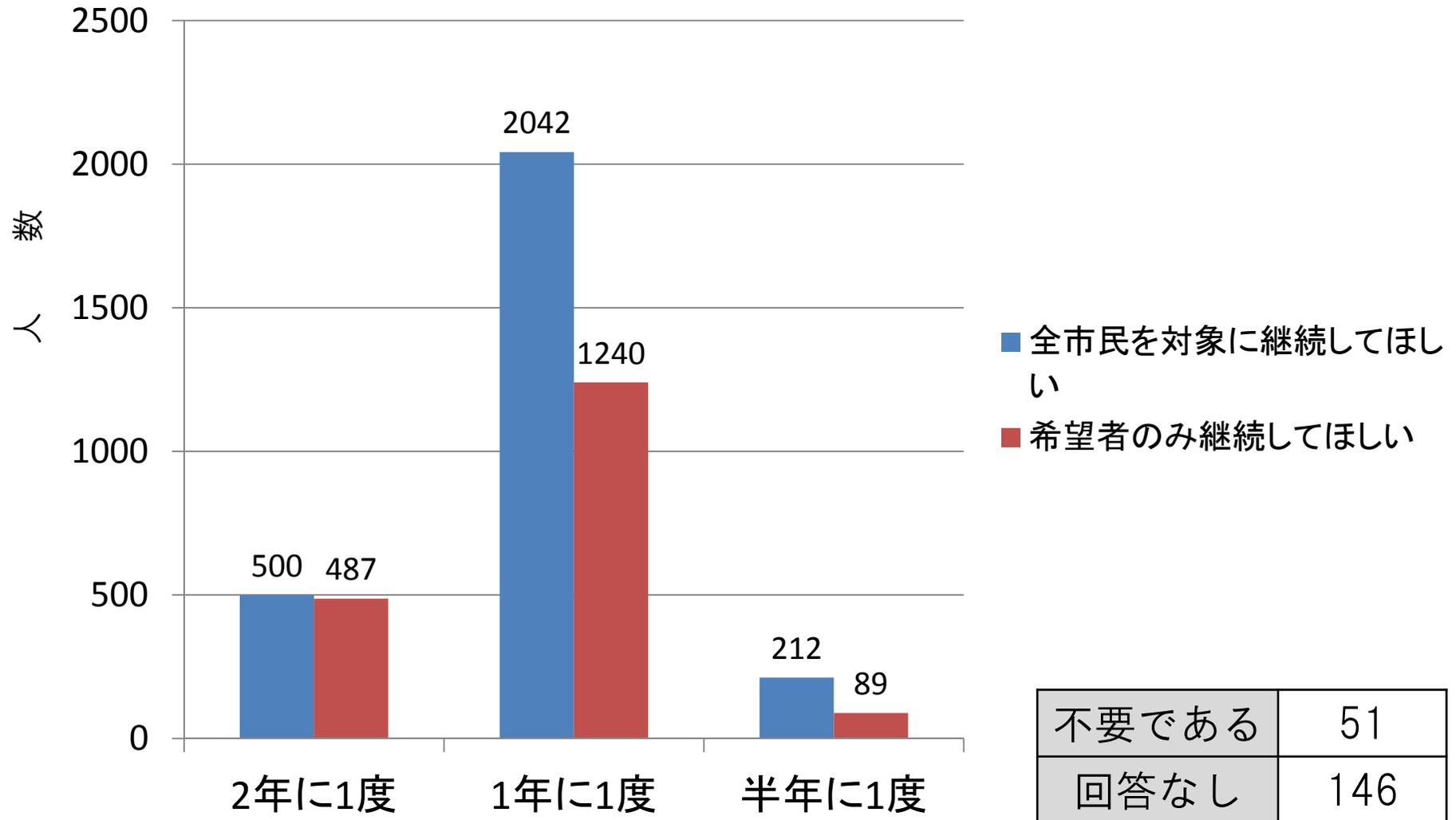
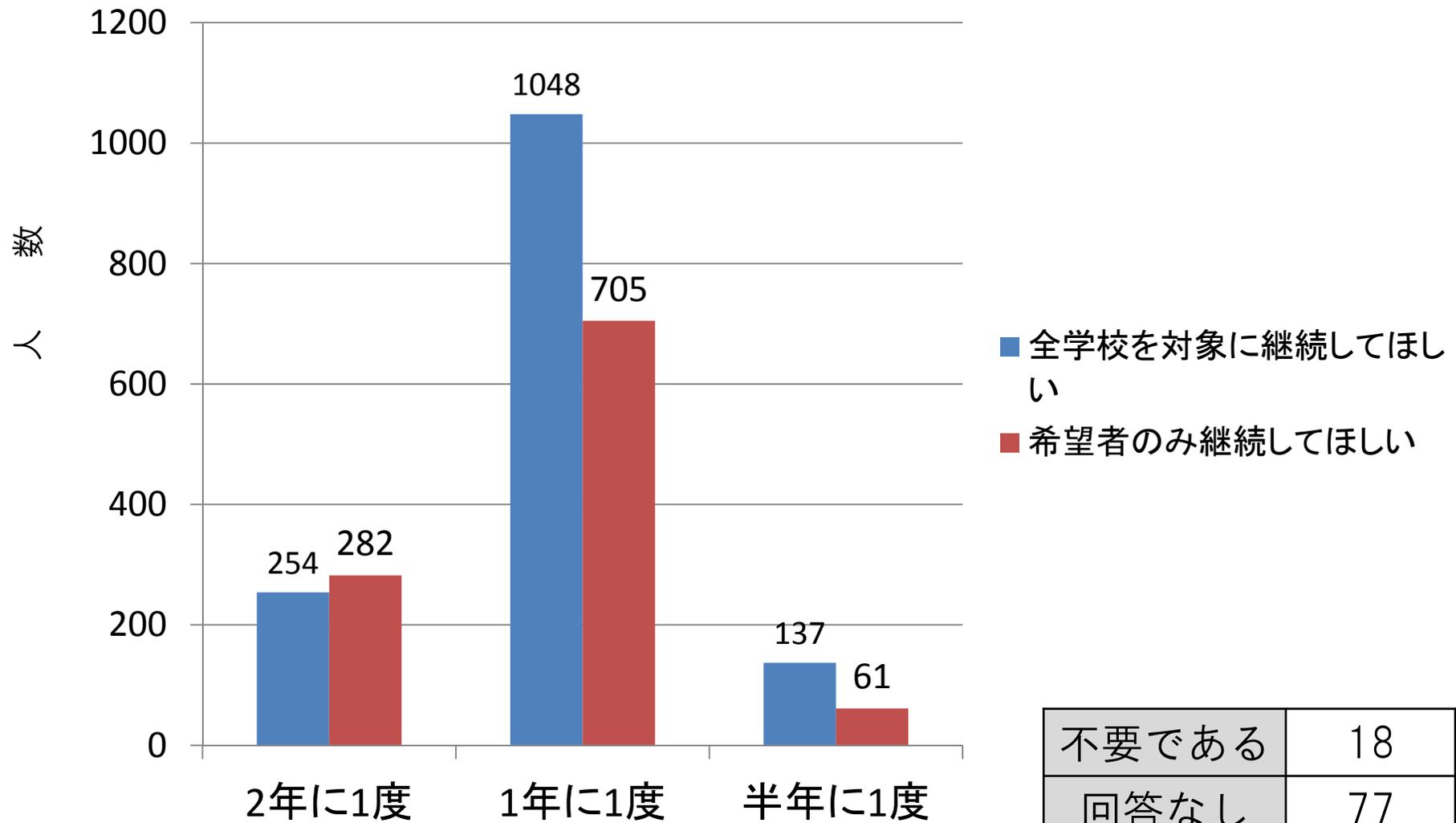


図 7-2

## 今後のWBC検診について



不要である	18
回答なし	77